

平成29年度 第2回 宮城県看護協会 潜在看護職員復職支援研修

平成29年度2回目となる潜在看護職員復職支援研修が1月23日にスキルスラボにて開催されました。この研修会は、宮城県看護協会が主催しているもので、看護職の免許を保有しており現在業務に就いていない人が、最近における看護の知識及び技術を修得することによって、看護師としての復職をサポートする目的で開催されています。

研修は午前と午後の2部構成で実施され、午前の研修では、東北大学病院東13階の上溝師長より「患者急変時の対応・救急蘇生の実際」について講義をして頂きました。講義後は、3名1組での一次救命処置の演習が行われ、病院内で人が倒れた場合をシミュレーションし、意識の確認から救急要請、胸骨圧迫・人工呼吸（バッグ換気）、AEDの使用までの流れを実践しました。一連の流れの中では、気道確保とバッグ換気が難しかった様子でしたが、上溝師長がマスクフィットのコツを教えると、どのグループもスムーズに換気出来るようになり、気道確保とバッグバルブマスクによる換気のコツを得ることが出来たようです。

午後の研修では、東北大学病院西14階の庄島副師長より「医療機器の安全使用」についての講義をして頂き、現在、臨床で主流となっている医療機器の紹介と、東北大学病院で実際に実施されている医療安全対策についてお話を頂きました。講義の後半では、尿道カテーテルが上手く入れられないという受講生の悩みに対し、導尿シミュレータとフォーリートレイを用いて、清潔操作と導尿の手技を練習する機会が設けられました。手技に不安を抱えていた受講生の方は勿論、他の受講生の方も改めて手順やフォーリートレイの仕組みを確認する良い機会となりました。

